

NSG

GROUP

NSG グループ

2022年3月期 第3四半期決算報告

(2021年4月1日～ 2021年12月31日)

日本板硝子株式会社
執行役常務 CFO
楠瀬 玲子

2022年2月3日

目次



1. 2022年3月期 第3四半期 決算概要
2. 2022年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗
4. まとめ

CFOの楠瀬です。

3ページは本日のご説明内容になります。

まず、2022年3月期 第3四半期決算の概要および2022年3月期の業績予想について、そしてリバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗についての順でご説明致します。

1. 2022年3月期 第3四半期 決算概要

連結損益計算書

自動車用ガラス事業の不調を建築用ガラス事業および高機能ガラス事業でカバー、黒字を継続。
持分法による投資損益も貢献



(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異
売上高	1,359	1,523	165	3,574	4,430	856
営業利益	48	18	△ 30	80	145	65
営業利益率	3.5%	1.2%	△ 2.3pt	2.2%	3.3%	+1.1pt
個別開示項目 (COVID-19関連)	△ 12	-	12	△ 140	-	140
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	36	18	△ 18	△ 60	145	205
個別開示項目 (その他)	10	△ 2	△ 12	2	44	42
個別開示項目後営業利益 (△損失)	46	17	△ 29	△ 58	189	247
金融費用 (純額)	△ 21	△ 32	△ 11	△ 75	△ 90	△ 15
持分法による投資損益	10	22	12	8	56	47
税引前利益 (△損失)	35	7	△ 28	△ 125	154	279
当期利益 (△損失)	37	10	△ 27	△ 135	105	240
純利益 (△損失)*	34	0	△ 33	△ 139	86	226
EBITDA	135	111	△ 24	323	422	99

10-12月期は自動車用ガラス事業で減収減益。累計では自動車用ガラス事業の減益を建築用ガラス事業、高機能ガラス事業の増益がカバー、グループ全体で営業黒字を継続

【営業利益(事業別)：前年比】

(億円)	Q3	累計
建築用	+ 25	+ 89
自動車用	△ 62	△ 49
高機能	+ 1	+ 33
その他	+ 6	△ 8
グループ全体	△ 30	+ 65

バッテリーセパレーター事業譲渡益等

ブラジル等持分法適用会社の業績回復

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

5

まず、5ページの連結損益計算書からご説明致します。

表の左側が第3四半期(3か月間)の業績、
その右側が4-12月期累計(9か月間)の業績となります。

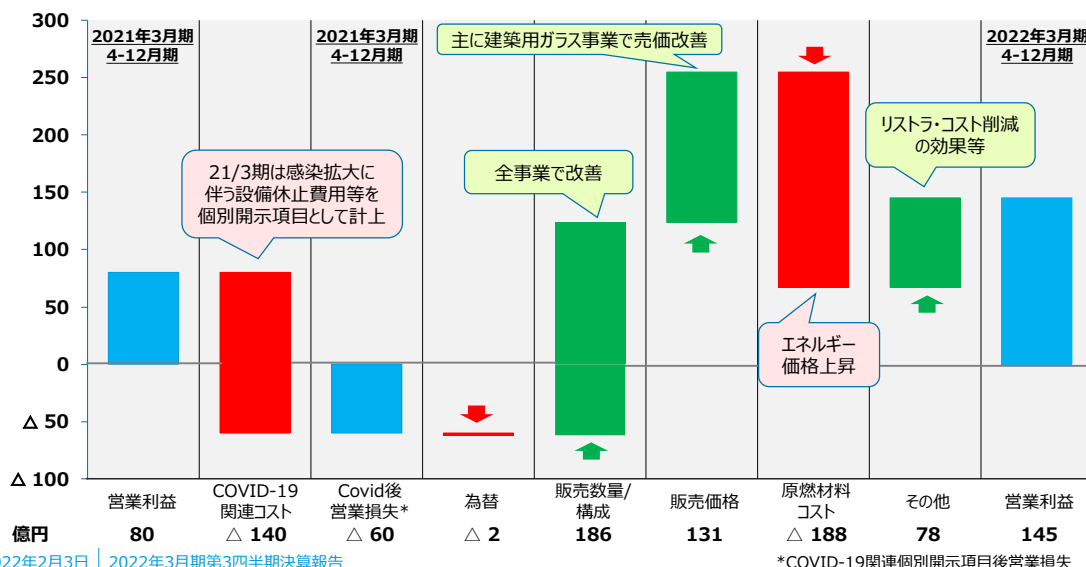
当第3四半期は、引き続き自動車メーカーが半導体等の部品不足による減産を余儀なくされ、当社自動車用ガラス事業でも前年対比減収減益となりました。この影響で、グループ全体では前年対比で165億円、12%増収の1,523億円を維持したものの、営業利益は30億円の減益となりました。しかしながら、事業環境の改善が継続している建築用ガラス事業と高機能ガラス事業がカバーし、グループ全体では18億円の営業利益を維持できました。

一方、累計では売上高は4,430億円、前年同期比856億円、24%の増収となり、営業利益は自動車用ガラス事業の減益を、建築用ガラス事業と高機能ガラス事業の増益でカバー、グループ全体で145億円と前年同期比65億円、81%の増益となりました。

営業利益より下の項目を見て頂くと、累計では、第2四半期にバッテリーセパレーター事業の譲渡に伴う44億円の利益を計上した個別開示項目後の営業利益は189億円、更にはブラジルのセブラセ社を中心とした持分法による投資損益56億円等により、当期利益は105億円、純利益は86億円と前年同期から大幅な改善となりました。

営業利益差異分析 (4-12月期累計)

需要の回復に加え、価格改善、コスト削減により原燃材料コスト増加を吸収し、205億円改善



続いて6ページは、4-12月期、累計9か月の営業利益について、前年同期との差異分析です。

前年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う設備休止費用等を個別開示項目に計上したため、COVID-19関連個別開示項目後営業損失60億円と当第3四半期累計の営業利益145億円の差異、205億円の説明となります。

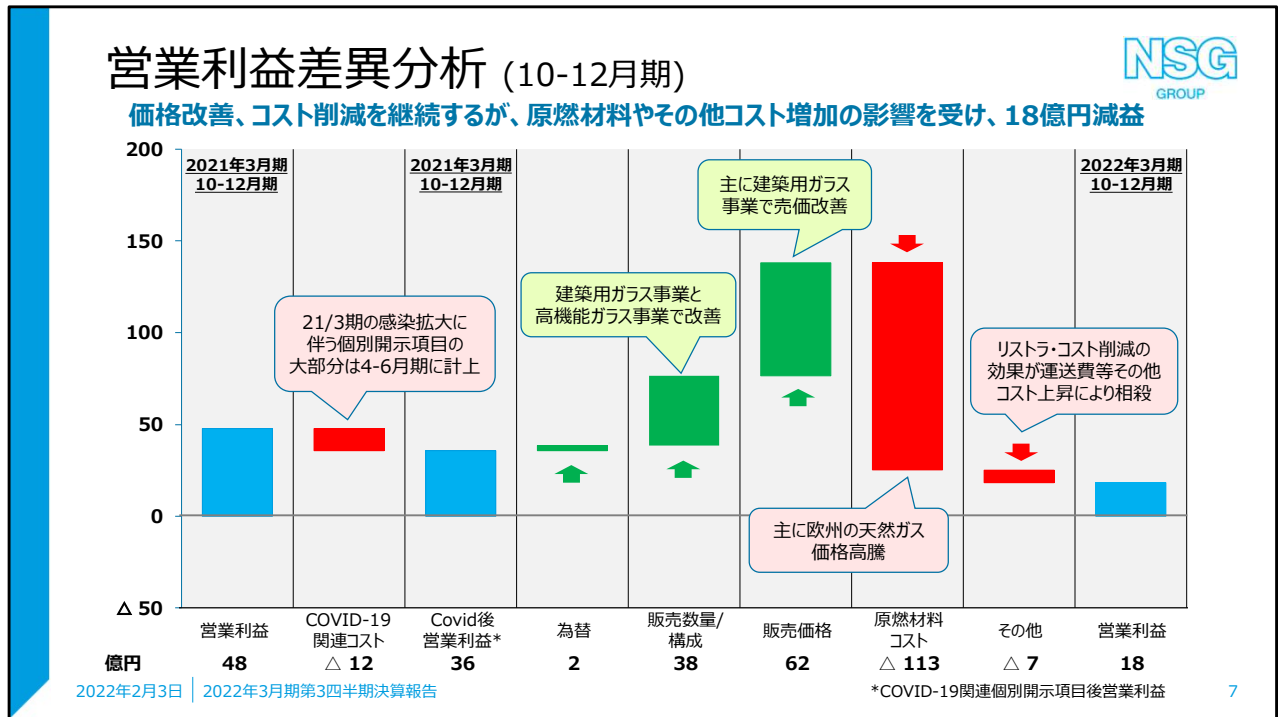
「為替」の2億円のマイナスは、円安のため前年度の営業損失を当年度の為替レートで計算すると営業損失が増加することによるものです。

「販売数量/構成」は186億円のプラス、全事業で新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた前年度から大幅に改善しました。

「販売価格」は131億円のプラス、主に建築用ガラス事業の欧州において、良好な需給環境に伴い価格が改善したことによるものです。

「原燃材料コスト」は188億円のマイナス、天然ガスを中心としたエネルギー価格上昇の影響を大きく受けました。

「その他」は78億円のプラス、当社の中期経営計画リバイバル計画24（RP24）に基づくコスト構造改革の成果が反映されています。



続きまして7ページは10-12月期、第3四半期3か月間の営業利益について前年同期との差異分析となります。

前年度のコロナウイルス感染拡大に伴う個別開示項目の大部分は第1四半期に計上し、第3四半期はCOVID-19関連個別開示項目後で営業利益36億円を計上したため、当第3四半期の営業利益18億円との差異マイナス18億円の説明です。

「為替」は円安の影響を受け2億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は事業環境の改善が続く建築用ガラス事業と高機能ガラスを中心に全事業で改善したため、38億円プラスの結果となりました。

「販売価格」は62億円のプラスで、これは主に建築用ガラス事業の欧州において、良好な需給環境の継続に伴い価格が改善したことによるものです。

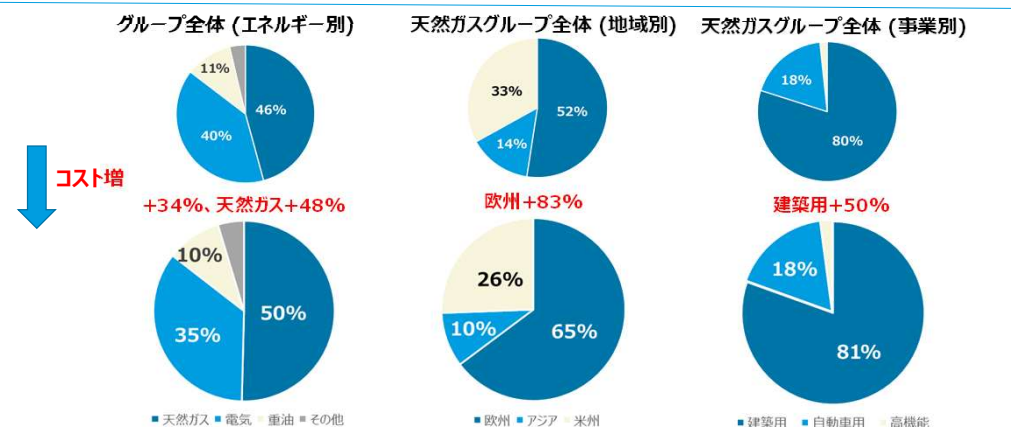
「原燃材料コスト」は113億円のマイナスで、主に欧州の天然ガスを中心としたエネルギー価格の影響を大きく受けました。

「その他」は7億円のマイナスとなりました。リバイバル計画24（RP24）に基づくコスト構造改革の成果は継続していますが、運送費などその他のコスト上昇により相殺されました。

エネルギーコスト内訳

2021年3月期(12か月間)対比2022年3月期累計(9か月間)のエネルギーコストは
 コロナ禍からの回復による生産量増とエネルギー価格高騰により、グループ全体で+34%、天然ガスは+48%。
 特にエネルギーコストに占める天然ガスの割合は価格高騰により、46%⇒50%に上昇。
 また地域別では欧州、事業別では建築用ガラス事業が天然ガス使用量が大きくコスト上昇の影響を受け易い

2021年3月期(12か月)



次の8ページから10ページでは、エネルギー価格の高騰が当社営業利益に大きな影響を与えた背景についてご説明致します。

まず、グループ全体のエネルギーコストの内訳です。

左側は、エネルギー源による内訳を円グラフにしたものです。

上が2021年3月期(12か月)、下が2022年3月期第3四半期累計(9か月)のもですが、全体の約半分が天然ガスとなります。

2021年3月期と比較して、2022年3月期第3四半期累計のエネルギーコストは、コロナ禍からの回復による生産量増とエネルギー価格高騰により、グループ全体で34%アップ、天然ガスは48%アップしており、特にエネルギーコストに占める天然ガスの割合は46%から50%に上昇しました。

中央の円グラフは天然ガス使用の状況を地域別に示したもので、欧州が大半を占めており、コストは83%アップしています。

そして右側円グラフが、天然ガスについて事業別に示したものです。

建築用ガラス事業が約80%を占めますが、コストとしては50%アップしています。

欧州の特に建築用ガラス事業において、コスト上昇のインパクトが大きくなっています。

エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：2021年12月末は3月末対比6.2倍に急騰。

日本の重油価格：2021年12月末は3月末対比42%上昇



2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

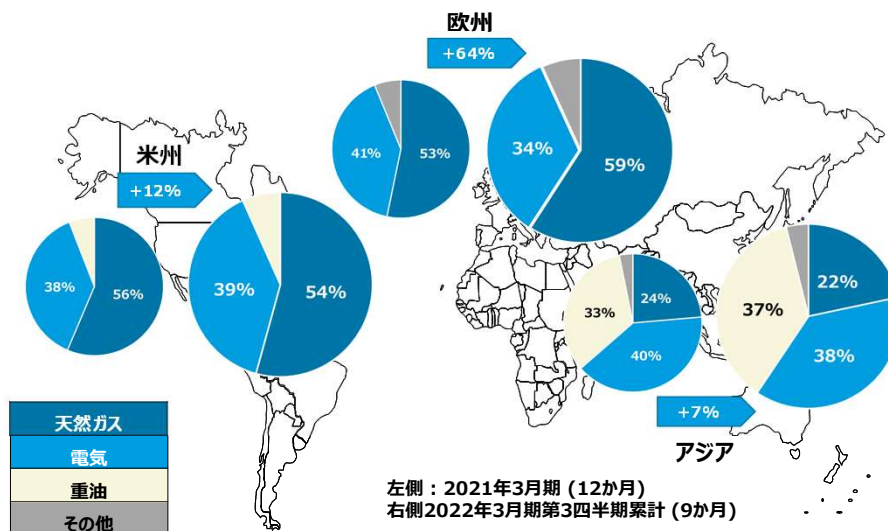
9

続きまして、9ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、右側が日本の重油の市場価格の推移になりますが、ドイツの天然ガス価格の急騰がご覧頂けます。

エネルギーコスト内訳 (地域別)

天然ガス価格の急騰は欧州、重油価格の上昇はアジアのエネルギーコストに大きな影響を与える



2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

10ページでは、地域ごとのエネルギー源による内訳を示しています。

欧州、アジア、米州の各地域ごとに、左から2021年3月期実績、2022年3月期第3四半期累計実績となります。

前ページで説明した欧州の天然ガスの急騰により欧州エネルギーコストが64%増、天然ガスの比率も6%上昇しています。

また日本の重油価格の上昇により、アジアの重油の比率が4%上昇する等、大きな影響を受けました。

連結貸借対照表



純利益の計上等により自己資本比率が改善、11%超まで回復

(億円)	2021年 3月末	2021年 12月末	増減	
資産合計	8,250	8,588	339	
非流動資産	5,750	5,973	224	持分法で会計処理される投資、 デリバティブ金融資産の増加
流動資産	2,500	2,615	115	棚卸資産、デリバティブ金融資産 の増加
負債合計	7,452	7,407	△ 45	
流動負債	2,878	3,006	128	長期借入金から1年以内借入金 にシフト、買掛債務の減少
非流動負債	4,574	4,401	△ 173	
資本合計	798	1,181	384	
親会社の所有者に帰属する持分	629	972	343	純利益の計上、エネルギーヘッジの 評価益、円安の影響により改善、 自己資本比率11%超まで回復
自己資本比率 (%)	7.6%	11.3%	+3.7pt	
ネット借入	4,117	4,076	△ 42	主にデリバティブ金融資産の増加 による

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

11

11ページは連結貸借対照表になります。

非流動資産は、持分法で会計処理される投資が増加するとともに、世界的に燃料価格が上昇したことにより、エネルギーヘッジに伴うデリバティブ金融資産が増加し、224億円増となりました。

流動資産は、主に自動車用ガラス事業において棚卸資産が増加し、また非流動資産と同様にデリバティブ金融資産が増加し、115億円の増でした。

流動負債は、非流動負債の長期借入金が1年以内借入金にシフトする一方で買掛債務が減少し128億円の増でした。

親会社の所有者に帰属する持分は、純利益の計上、エネルギーヘッジのためのデリバティブの評価益、円安により、343億円増加の972億円まで回復しました。この結果、自己資本比率は、11.3%と、前期末比で3.7ポイント上昇しました。

ネット借入は、主にデリバティブ金融資産の増加を受けて42億円減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書



利益改善、キャッシュ管理活動の継続に加え、事業譲渡収入もあり、累計のフリー・キャッシュ・フローは前年同期から大きく改善し、プラス。通期での黒字を目指し、順調に進捗

(億円)	10-12月期 (3か月)			4-12月期累計 (9か月)		
	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	125	67	△ 58	47	211	164
(うち、運転資本の増減)	20	0	△ 20	△ 46	△ 87	△ 41
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 69	△ 42	26	△ 333	△ 201	132
(うち、有形固定資産の取得)	△ 78	△ 57	21	△ 305	△ 260	45
フリー・キャッシュ・フロー	56	24	△ 32	△ 286	11	296
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 26	△ 1	26	283	△ 120	△ 402
現金及び現金同等物の増減	30	23	△ 6	△ 3	△ 109	△ 106
現金及び現金同等物 期末残高				413	446	32

利益改善やキャッシュ管理の徹底により、前年同期から大幅に改善

自動車用ガラス事業で棚卸資産増加

バッテリーセパレーター事業譲渡収入(62億円)

前年同期から大幅に改善、累計でもプラス

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

12

12ページは連結キャッシュフロー計算書です。

営業キャッシュフローは10-12月期の3か月間では67億円とプラスでしたが、減益および運転資本増により、前年同期より58億円の減少。一方、累計では、利益改善、キャッシュ管理の徹底などにより164億円増加し、211億円のプラスとなりました。

運転資本は累計で87億円増加しましたが、これは主に自動車用ガラス事業で棚卸資産が増加したためです。

投資活動によるキャッシュフローは、第2四半期のバッテリーセパレーター事業の売却収入もあり、累計で前年同期比132億円の改善となっています。

この結果、当第3四半期のフリー・キャッシュ・フローは24億円のプラスとなりました。また累計でも前年同期比296億円改善し、11億円のプラスとなり、通期でのプラスの目標に向けて順調に進捗しています。

セグメント情報



(億円)	2020年3月期 4-12月期			2021年3月期 4-12月期				2022年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	COVID後* 営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	1,801	43%	140	1,561	44%	115	58	2,069	47%	204	508	89
欧州	663	16%		606	17%			842	19%		236	
アジア	717	17%		583	16%			647	15%		64	
米州	421	10%		372	10%			579	13%		208	
自動車用ガラス事業	2,146	50%	53	1,736	49%	△ 11	△ 94	2,033	46%	△ 59	297	△ 49
欧州	907	21%		721	20%			864	20%		143	
アジア	511	12%		434	12%			444	10%		10	
米州	728	17%		581	16%			725	16%		144	
高機能ガラス事業	302	7%	54	266	7%	45	43	308	7%	78	42	33
欧州	51	1%		46	1%			59	1%		13	
アジア	240	6%		212	6%			240	5%		27	
米州	11	0%		8	0%			9	0%		1	
その他	9	0%	△ 67	11	0%	△ 69	△ 67	20	0%	△ 77	10	△ 8
合計	4,258	100%	180	3,574	100%	80	△ 60	4,430	100%	145	856	65

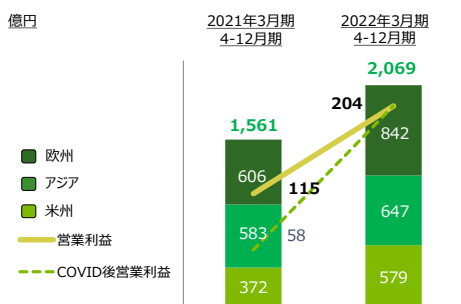
2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 13

13ページは、過去3か年度の4-12月期の事業セグメント毎に売上高及び営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益) NSG GROUP

全地域で堅調な需要により大幅な増収を継続。エネルギー価格高騰の影響を受けるが価格改善およびコスト削減により軽減し、大幅な増益を継続、2020年3月期を上回る



(億円)	累計(9か月)	10-12月期(3か月)			累計(9か月)		
		2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	差	2021年3月期	2022年3月期
売上高	1,801	570	748	178	1,561	2,069	508
欧州	663	224	293	69	606	842	236
アジア	717	205	245	40	583	647	64
米州	421	141	210	69	372	579	208
営業利益	140	42	68	25	115	204	89
COVID後営業利益*	140	39	68	29	58	204	146

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 ¹⁴

欧州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・減益)

- 供給能力を上回る需要により販売数量および価格が上昇
- 10-12月期は、引き続き価格改善、安定した操業やコスト削減で軽減したが、原燃材料費や輸送コストの急激な上昇に追いつかず、収益性が低下

アジア (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

- 日本の販売数量および価格が回復、日本以外でも好調を維持
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

米州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)

- 北米は、フロート窯の定期修繕と輸送コンテナ不足により出荷に多少の制約があるが、販売数量は増加
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- 南米は強い需要が継続

14ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、欧州をはじめ全地域で強い需要を反映して大幅な増収が継続しています。

エネルギー価格高騰の影響を受けましたが、需給環境を反映した値上げやコスト削減努力により軽減し、大幅な増益を継続しました。

売上、利益共に、新型コロナウイルスの影響を受ける前の2020年3月期を上回っています。

欧州は、増収増益となりました。

供給能力を上回る好調な需要により販売数量・価格がともに改善しました。

一方で、10-12月期は、引き続き、価格改善、安定した操業やコスト削減で軽減したものの、原燃材料費や輸送コストの急激な上昇に追いつかず、収益性が低下、前年比減益となりました。

アジアも、増収増益でした。

日本国内における販売数量・価格は回復し、その他東南アジアの国々においても好調を維持しています。太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調に推移しています。

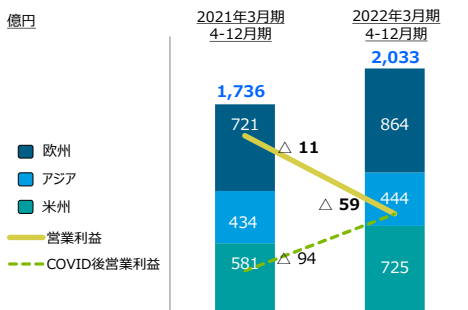
米州も、増収増益となりました。

北米は、フロート窯の定期修繕と輸送コンテナの不足により、若干出荷が制約されましたが、販売数量は増加、太陽電池パネル用ガラスの売上は引き続き好調です。

南米は、強い需要が継続しています。

自動車用ガラス事業 (累計：増収・減益 10-12月期：減収・減益) NSG GROUP

10-12月期は部品不足による自動車生産制約の影響を受け減収。
 原燃材料費高騰の影響を受け、コスト削減努力にもかかわらず減益となり、累計でも減益



欧州 (累計：増収・減益 10-12月期：減収・減益)
 アジア (累計：増収・増益 10-12月期：減収・減益)
 米州 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・減益)

- 10-12月期は、半導体等自動車部品不足による自動車生産の制約の影響を受け、欧州、日本を含むアジアで販売数量が減少
- 原燃料コスト高騰の影響もあり、コスト削減努力にもかかわらず10-12月期は全地域で減益、累計でも、全体として減益

(億円)	累計(9か月)		10-12月期(3か月)				
	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	差	2021年 3月期	2022年 3月期	差
売上高	2,146	683	681	△ 2	1,736	2,033	297
欧州	907	288	273	△ 15	721	864	143
アジア	511	176	164	△ 12	434	444	10
米州	728	219	244	25	581	725	144
営業利益	53	13	△ 49	△ 62	△ 11	△ 59	△ 49
COVID後営業利益*	53	5	△ 49	△ 54	△ 94	△ 59	35

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 15

15ページは自動車用ガラス事業です。

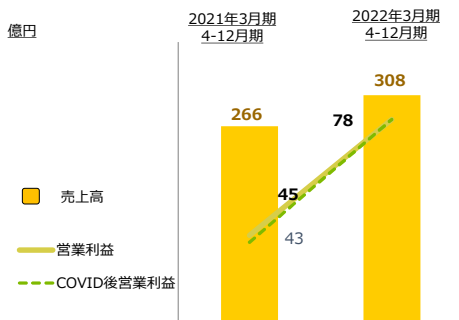
自動車用ガラス事業は、10-12月期も引き続き半導体等部品不足による自動車生産制約の影響を受け、日本を含むアジア、欧州で販売数量が大きく減少し、減収となりました。

また、コスト削減努力にもかかわらず、原燃材料コスト高騰の影響を受け、減益となりました。

高機能ガラス事業 (累計：増収・増益 10-12月期：増収・増益)



引き続きCOVID-19の影響があった前年同期から事業環境が改善、増収増益を継続
(9月以降は売却したバッテリーセパレーター除く)



高機能ガラス事業

- ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善
- プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が引き続き増加
- グラスコードは中国を中心に需要が堅調。メタシャイン® は化粧品向け市場で需要回復の兆し

(億円)	累計(9か月)				累計(9か月)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異
売上高	302	101	91	△ 10	266	308	42
営業利益	54	20	21	1	45	78	33
COVID後営業利益*	54	21	21	0	43	78	35

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益 16

続きまして16ページです。

高機能ガラス事業は、COVID-19の影響があった前年同期から事業環境改善が継続し、増収増益となりました。

9月以降の業績は売却したバッテリーセパレーター事業分がなくなっています。

ファインガラスは、継続的なコスト削減による事業基盤の強化や売上構成の改善により業績は改善しました。

プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が引き続き増加しています。

グラスコードは中国を中心に需要が堅調でした。

2. 2022年3月期 業績予想について

2022年3月期業績予想の前提

グループ	<p>第3四半期までの実績を踏まえ売上高は上方修正 自動車生産の状況、原燃材料価格高騰を勘案し、営業利益は下方修正 持分法による投資損益の好調に支えられ、当期利益と純利益は据え置き、 RP24の重点施策「財務基盤の回復」を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー価格高騰等による投入コスト増は継続見込 自動車用ガラス事業等不透明な事業環境が継続 持分法による投資損益は好調
建築用ガラス	<p>良好な需給環境が継続するが、欧州を中心にエネルギー価格高騰の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧州：需給引締めを受けた価格上昇は継続、天然ガス価格高騰等で収益性は低下 アジア：日本の数量および価格も回復基調にあり、好調継続 北米：経済活動再開に伴い域内市場は好調 南米：タイトな需給環境が継続 太陽電池パネル用ガラス：数量増加見込
自動車用ガラス	<p>自動車需要は堅調だが、半導体等部品不足と原燃材料費高騰の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 全地域で強い自動車需要と在庫逼迫感は継続。 半導体等部品不足の解消タイミングは不透明感が依然継続 原燃材料費高騰の影響を追加コスト削減により軽減、損益改善を目指す
高機能ガラス	<p>全体として事業環境の改善が継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ファインガラスは、売上構成の改善と継続的なコスト削減が貢献 プリンター用レンズは当面在宅勤務による需要増加の恩恵が続く

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

18

続いて2022年3月期の業績予想です。
スライド18は2022年3月期業績予想の前提を示しています。

今回、主に建築用ガラス事業を中心とした強い需要を反映した第3四半期実績を踏まえ、通期売上高の上方修正を致しました。

一方、営業利益は下方修正致しました。

これはエネルギー価格を中心とした原燃材料価格高騰は今後も高止まりの可能性があること、自動車用ガラス事業を中心とした不透明な事業環境が続くことを踏まえたためです。

ただし、持分法による投資損益が好調であるため、当期利益と純利益は据え置き、RP24の重点施策「財務基盤の回復」を引き続き推進して参ります。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業では

欧州では、良好な需給環境を踏まえ、さらなる価格改善の継続を想定していますが、高騰した天然ガスを中心としたエネルギー価格上昇は高止まり、収益性が低下する見込みです。

アジアでは、日本の数量および価格も回復基調にあり、好調が継続する見込みです。

北米では、経済活動再開に伴う域内市場は引き続き回復基調にあり、

南米でもタイトな需給環境が継続する想定です。

太陽電池パネル用ガラスは、引き続き好調な需要を反映した数量増加を見込んでいます。

自動車用ガラス事業では、全地域で堅調な自動車需要がありますが、半導体不足と原燃材料費の高騰の影響を受ける想定です。

原燃材料費の高騰の影響を追加コスト削減により軽減し、損益の改善を目指します。

高機能ガラス事業では引き続き好ましい事業環境が継続する見込みです。

2022年3月期通期業績予想



売上高を上方修正。自動車生産の状況、原燃材料価格高騰を踏まえ営業利益は下方修正。持分法による投資損益の好調に支えられ、当期利益と純利益は据え置き、RP24の重点施策「財務基盤の回復」を引き続き推進

(億円)	2022年3月期 Q3累計実績	2022年3月期 通期予想 (前回)	2022年3月期 通期予想 (今回)	2021年3月期 通期実績
売上高	4,430	5,600	5,900	4,992
営業利益	145	240	200	131
COVID関連個別開示項目後 営業利益	145	240	200	△ 30
個別開示項目 (その他)	44	50	40	△ 53
個別開示項目後営業利益	189	290	240	△ 83
金融費用 (純額)	△ 90	△ 130	△ 130	△ 110
持分法による投資損益	56	30	70	21
税引前利益	154	190	180	△ 172
当期利益	105	120	120	△ 163
純利益*	86	100	100	△ 169

*親会社の所有者に帰属する当期利益

19

スライド19ページです。

2022年3月期の業績予想になります。

表の左側から、2022年3月期の第3四半期累計実績、前回通期予想、今回通期予想と並んでおります。

先ほど申し上げました通り、今回、第3四半期実績および今後の見通しを踏まえ、通期業績予想を修正致します。

通期の売上高は、前回比300億円増加し5,900億円、営業利益は40億円減の200億円としています。




ただし、当期利益と純利益は据え置き、当社の中期経営計画であるRP24に沿った財務基盤の回復を進めて参ります。

3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗

リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗



RP24に基づき、持続的な成長が可能な事業体質を目指して主要施策を実行中。
東証プライム市場への移行決定済み

3つの改革	コスト構造改革 ・ 人員削減：欧米の自動車用ガラス事業を中心に拠点、製造ラインを統廃合、22/3期累計で約800人を削減（20/3期比95億円削減）、21/3期と合わせて2,300人超の削減（22/3期末までに同130億円削減の見込み）（退職コストは21/3期に引当済） ・ コスト削減：「改革・革新」活動を通じた直接費低減を推進中、これまで35億円削減し、期末までに43億円削減の見込み ・ 自動車用ガラス事業における約32億円の追加コスト削減を実施	
	事業構造改革 ・ 米国、ベトナム 太陽電池パネル用ガラスが収益寄与と同時にCO2削減による地球環境の保護に貢献 ・ アルゼンチン新フロート窯建設は、23/3期の早い段階で本格稼働開始を目指して順調に進捗 ・ ポーランドで風力発電による再生可能電力の購入契約を締結、電力価格影響の軽減とともにCO2削減に貢献	
	企業風土改革 ・ 「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)」：各事業部、地域、各部門で女性管理職比率上昇目標を設定しグローバルで推進	
2つの重点施策	財務基盤の回復 (2022年3月期 4-12月期実績) ・ 黒字を継続。純損益は前年同期から約230億円の大幅改善、自己資本比率も11%超まで回復 ・ 2021年12月末現預金残高536億円、未使用融資枠805億円	
	高収益事業へのポートフォリオ転換 ・ 高弾性・高強度ガラスファイバー「MAGNAVI®」を新開発、脱炭素社会を背景に伸びるFRP (Fiber Reinforced Plastics：繊維強化プラスチック) 等複合材市場での新たなソリューションを目指す	 

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告 RP24 説明資料：
https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtrpr24presentation2021_j01.pdf 21

続いてリバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革について、21ページで主要な進捗をご説明します。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して「3つの改革」と「2つの重点施策」を掲げていますが、「3つの改革」における進捗についてご説明致します。

1つ目の「コスト構造改革」については、人員削減を含むあらゆるコスト削減・生産性向上を策定、実施中です。

人員削減では、主に欧米の拠点、製造ラインの統廃合を実施しています。

当期累計で約800人が退職され、前期と合わせて2,300人超が退職されました。

このコスト削減効果は、累計で2020年3月期と比較して95億円、当期末までに130億円となる見込みです。なお、退職コストは前期2021年3月期に既に引当済みです。

コスト削減については、「改革・革新」活動を通じた直接費低減の取り組みを実行中です。

これまでに35億円削減、期末までに43億円削減を達成する見込みです。

また、第2四半期より自動車用ガラス事業において追加のコスト削減を実施しており、これまで32億円のコスト削減を実施しました。

続いて「事業構造改革」では高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。

米国、ベトナムで製造をしている太陽電池パネル用ガラスは収益寄与と共にCO2削減による地球環境の保護に貢献しています。

高付加価値事業の拡大のため進めてきたアルゼンチンの新フロート窯の建設は、来期の早い段階での本格稼働を目指し順調に進捗中です。

1月14日にニュースリリースを出しましたが、ポーランドで風力発電による再生可能電力の購入契約を締結し、この1月から、固定価格で購入しています。不安定な電力価格の影響を軽減し、CO2削

減にも貢献します。

「企業風土改革」については、「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D) 」活動として、各事業部、地域、各部門で女性管理職比率上昇目標を設定し、グローバルで推進しています。

続いて「2つの重点施策」についてご説明致します。

「財務基盤の回復」については、「コスト構造改革」や「事業構造改革」等が功を奏し、純損益が前年同期から226億円と大幅に改善するとともに、自己資本比率も11%超まで回復しました。

「高収益事業へのポートフォリオ転換」については、脱炭素社会を背景に今後拡大が予想される複合材市場での新たなソリューションを目指し、高弾性・高強度ガラスファイバーの「MAGNAVI®」を新たに開発しました。

こちらは昨日、ニュースリリースを出しておりますので、ご参照下さい。

なお、2022年4月以降の東証の市場区分見直しにつきましては、東証プライム市場への移行が決定しました。

4. まとめ

まとめ



1. 2022年3月期 第3四半期決算

- 自動車生産制約、原燃材料価格高騰の影響を価格改善、コスト削減で軽減
- 自動車用ガラス事業の不調を建築用ガラス事業および高機能ガラス事業でカバー、黒字を継続
- 持分法による投資損益が貢献
- 事業業績等により自己資本、キャッシュ・フローもさらに改善

2. 2022年3月期 通期業績予想

- 売上高を上方修正、営業利益は下方修正。
持分法による投資損益が好調で当期利益と純利益は据え置き
- 建築ガラス事業は良好な需給環境が継続するが、欧州を中心にエネルギー価格高騰の影響を受ける
- 自動車用ガラス事業は半導体等部品不足と原燃材料価格高騰の影響が継続

3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の進捗

- コスト構造改革：人員削減およびコスト削減が進捗
- 事業構造改革：アルゼンチンにおける新フロート窯建設は、順調に進捗
ポーランドで風力発電による再生可能電力の購入契約を締結
- 事業ポートフォリオ変革：高弾性・高強度ガラスファイバー「MAGNAVI®」を新開発
- 東証プライム市場への移行決定済み

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料



- 連結損益計算書（四半期別）
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 四半期別セグメント情報
- 地域別業績
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費

連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
売上高	1,471	1,415	1,372	1,304	919	1,296	1,359	1,418	1,477	1,430	1,523
営業利益(△損失)	88	61	31	32	△ 6	38	48	51	72	55	18
営業利益率	6.0%	4.3%	2.3%	2.5%	-	2.9%	3.5%	3.6%	4.9%	3.9%	1.2%
個別開示項目(COVID-19関連)	-	-	-	△ 22	△ 115	△ 13	△ 12	△ 21	-	-	-
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	88	61	31	10	△ 121	25	36	30	72	55	18
個別開示項目(その他)	△ 6	△ 16	△ 22	△ 174	0	△ 8	10	△ 55	△ 2	47	△ 2
個別開示項目後営業利益 (△損失)	82	45	9	△ 164	△ 121	17	46	△ 25	70	102	17
金融費用(純額)	△ 35	△ 28	△ 32	△ 23	△ 24	△ 30	△ 21	△ 35	△ 29	△ 29	△ 32
持分法による投資損益	5	3	4	△ 1	△ 4	2	10	13	14	19	22
税引前利益 (△損失)	52	20	△ 19	△ 188	△ 149	△ 11	35	△ 47	55	92	7
当期利益 (△損失)	31	△ 7	△ 5	△ 194	△ 165	△ 7	37	△ 28	28	67	10
純利益 (△損失) *	29	△ 10	△ 7	△ 201	△ 164	△ 9	34	△ 30	25	61	0
EBITDA	175	142	115	118	61	127	135	145	165	146	111

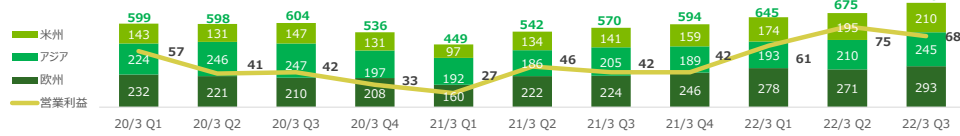
*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

事業部門別・地域別売上高及び営業利益 四半期別推移



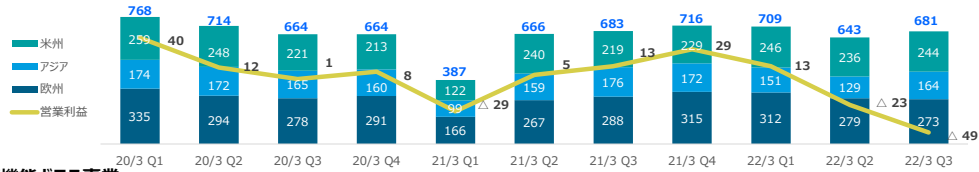
建築用ガス事業

単位：億円



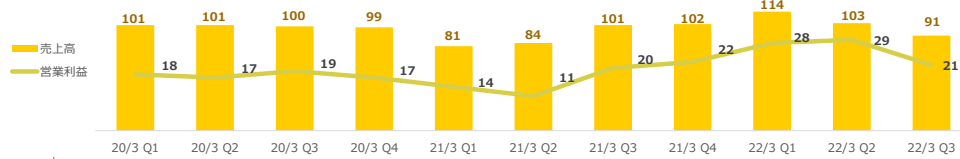
自動車用ガス事業

単位：億円



高性能ガス事業

単位：億円



2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

セグメント情報



(億円)	2020年3月期					2021年3月期					2022年3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	累計
売上高: 建築用ガラス	599	598	604	536	2,337	449	542	570	594	2,155	645	675	748	2,069
欧州	232	221	210	208	871	160	222	224	246	852	278	271	293	842
アジア	224	246	247	197	914	192	186	205	189	772	193	210	245	647
米州	143	131	147	131	552	97	134	141	159	531	174	194	210	579
営業利益	57	41	42	33	173	27	46	42	42	157	61	75	68	204
COVID後営業利益*	-	-	-	27	167	△ 22	41	38	34	91	-	-	-	-
売上高: 自動車用ガラス	768	714	664	664	2,810	387	666	683	716	2,452	709	643	681	2,033
欧州	335	294	278	291	1,198	166	267	288	315	1,036	312	279	273	864
アジア	174	172	165	160	671	99	159	176	172	606	151	129	164	444
米州	259	248	221	213	941	122	240	219	229	810	246	236	244	725
営業利益	40	12	1	8	61	△ 29	5	13	29	18	13	△ 23	△ 49	△ 59
COVID後営業利益*	-	-	-	△ 6	47	△ 93	△ 6	4	17	△ 78	-	-	-	-
売上高: 高性能ガラス	101	101	100	99	401	81	84	101	102	368	114	103	91	308
欧州	17	18	16	20	71	13	14	19	18	64	21	18	20	59
アジア	80	79	81	77	317	65	68	79	81	293	90	82	68	240
米州	4	4	3	2	13	3	2	3	3	11	3	3	3	9
営業利益	18	17	19	17	71	14	11	20	22	67	28	29	21	78
COVID後営業利益*	-	-	-	16	70	12	10	21	22	65	-	-	-	-
売上高: その他	3	2	4	5	14	2	4	5	6	17	9	8	3	20
営業利益	△ 27	△ 9	△ 31	△ 26	△ 93	△ 18	△ 24	△ 27	△ 42	△ 111	△ 31	△ 25	△ 22	△ 77
COVID後営業利益*	-	-	-	△ 27	△ 94	△ 18	△ 20	△ 27	△ 43	△ 108	-	-	-	-
売上高: 合計	1,471	1,415	1,372	1,304	5,562	919	1,296	1,359	1,418	4,992	1,477	1,430	1,523	4,430
営業利益	88	61	31	32	212	△ 6	38	48	51	131	72	55	18	145
COVID後営業利益*	-	-	-	10	190	△ 121	25	36	30	△ 30	-	-	-	-

2022年2月3日 | 2022年3月期第3四半期決算報告

*COVID-19関連個別開示項目後営業利益

28

地域別売上高及び営業利益



(億円)	2021年3月期 4-12月期			2022年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	1,373	38%	24	1,765	40%	△ 15	392	△ 39
アジア	1,229	34%	83	1,331	30%	157	102	74
米州	961	27%	42	1,314	30%	80	353	38
その他 *	11	0%	△ 69	20	0%	△ 77	10	△ 8
合計	3,574	100%	80	4,430	100%	145	856	65

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

個別開示項目

(億円)	2021年3月期	2022年3月期
	4-12月期	4-12月期
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連*	△ 140	-
政府支援による収益	23	-
設備休止等に係る費用	△ 163	-
リストラクチャリング費用	△ 40	△ 1
事業の譲渡による利益	-	44
係争案件の解決に係る収益	34	-
子会社及びジョイントベンチャーの売却による利益	7	-
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連 政府支援による収益	-	4
その他	1	△ 3
個別開示項目 純額	△ 138	44

* 2021/3期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延により影響を受ける直接費と回収不能な事業運営コスト、及びそれに関連して政府により支給される補助金を個別開示項目として計上。これらにはCOVID-19により生産活動に従事できない従業員への給与支払や休止設備の維持費用、施設の安全な作業環境整備のために生じた清掃費用などの直接費用を含む。

為替レート



期中平均レート

	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	141	137	138	138	133	135	136	139	153	152	153
ユーロ	124	121	121	121	118	121	123	124	132	131	131
米ドル	109	109	109	109	107	106	106	106	109	109	112
ブラジル・レアル	28.0	27.6	27.2	26.4	19.9	19.8	19.7	19.7	20.6	20.8	20.7
アルゼンチン・ペソ	4.70	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用									

期末レート

	2020年 3月期				2021年 3月期				2022年 3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	137	133	144	133	132	135	141	152	153	150	156
ユーロ	123	118	122	119	121	124	127	130	132	129	131
米ドル	108	108	109	108	107	105	103	111	111	112	116
ブラジル・レアル	28.3	26.0	27.1	20.8	19.9	18.7	19.8	19.1	22.3	20.6	20.4
アルゼンチン・ペソ	2.53	1.88	1.82	1.68	1.53	1.38	1.22	1.20	1.16	1.13	1.12

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、
為替レートが他の通貨に対して
1%円高になった場合の影響額

	2021年 3月期
資本	31.0億円の減少
当期損失	1.0億円の改善

減価償却費・資本的支出・研究開発費



(億円)	2021年3月期 4-12月期	2022年3月期 4-12月期	2022年3月期 見通し
減価償却費	263	277	350
資本的支出	256	153	290
通常投資	97	134	
戦略投資、他	159	19	
研究開発費	66	61	90
建築用ガラス事業	18	18	
自動車用ガラス事業	18	18	
高機能ガラス事業	7	7	
その他	23	18	

NSG

GROUP